

寝屋川市水辺整備基本構想（改定版）概要版

平成 31(2019)年 3 月
寝屋川再生ワークショップ
寝屋川市

1 水辺整備の背景

【水辺整備基本構想の改定について】

本市は、市名である寝屋川をはじめ市民の身近な場所に多様な水辺環境を有しています。このような水辺に関する特性を活かしたまちづくりを進めるため、市制 50 周年を契機として平成 13(2001)年度から寝屋川再生ワークショップによる取組を継続的に実施し、寝屋川せせらぎ公園の整備など、市と市民等との協働により水辺環境の整備と保全を進めてきました。

また、寝屋川再生ワークショップでは摂南大学と連携を図り、平成 22(2010)年 3 月には「寝屋川市水辺整備基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定し、市民提案に基づく水辺整備の基本理念・基本方針・重点整備箇所等を踏まえて、市民活動を主体とした水辺づくりを推進しています。

その後、寝屋川再生ワークショップによる“川をまちづくりに活かす活動”が一定の成果を上げてきましたが、基本構想の策定から概ね 10 年が経過し、香里園地域への環境用水確保などの新たな課題や、淀川河川公園点野野草地区における水辺環境再生の機運の高まりなどを反映した国・大阪府の動向、社会情勢の変化等に対応した関連計画の改定などを踏まえ、平成 31(2019)年 4 月からの中核市移行を契機とした、都市格の向上に資するシティプロモーションの取組の充実や、持続可能な市民参画・協働の水辺づくりによる、更なる「水とみどり豊かなまちづくり」を推進するため基本構想の改定を行うものです。

【寝屋川再生ワークショップのこれまでの取組】 ※ 実現した親水空間



寝屋川せせらぎ公園
H17(2005)年 4 月



茨田樋遺跡水辺公園
H19(2007)年 4 月



幸町公園
H21(2009)年 4 月



川勝水辺ひろば
H25(2013)年 6 月



友呂岐・二十箇水辺ひろば
H27(2015)年 3 月



山新池（太秦 2 号公園）
H29・30(2017・2018)年 4 月

【寝屋川市内における水辺の特徴】

●淀川とともに歩んだ寝屋川、近畿を代表する河川「淀川」

淀川は古くから近畿地方の社会、経済、文化の基盤を支え、貴重な恵みと自然環境を提供してくれる近畿の一大河川です。

●様々な水を集める寝屋川

交野市域を源流とする寝屋川は、北生駒山系から流れる自然水が本流ですが、桜木町付近で淀川からの浄化用水や下水高度処理水を流入させるなど様々な水を集めています。

●市域西部の水は淀川から、市域東部の水は北生駒「交野・四條畷」から

市域西部の水は、そのほとんどが淀川から取水されたもので、市域東部の水は、主に北生駒山系、交野市・四條畷市域からの自然水が流れています。

2 「寝屋川再生ワークショップからの提案」と「基本理念」

【寝屋川再生ワークショップからの提案と目標】

(1) 市内全域に潤いのある水辺を広げる

(3) 日常生活に活かす水辺づくりをおこなう

(2) 市民のソフト活動を重視する

(4) 水辺の情報発信をおこなう

【基本理念】

「ひとをつないで 水辺をつなげる

水辺をつないで まちをつなげる」

メダカが泳ぎ、ホタルが飛び交っていたかつての水に親しむ暮らしを思い起こし、水辺との関わりを大切にして、市内に水辺の潤いをひろげ、市民・行政の協働により、市民の日常生活にとけこんだ水辺づくりを進めていきます。

水辺の積極的な市民活動により人々の輪が広がれば、そこから新たな人のつながりが生まれ、更なる水辺の活動の機運向上へとつながります。

人のつながりが水辺をつなげ、水辺のつながりがまちづくりにつながるように、市民と行政が力を合わせて水辺環境の創造と保全に努めます。

3 水辺整備の基本方針

【基本方針】

(1) 水辺のネットワークとため池の保全

(2) 適切な水量確保と水辺の拡大

(3) ビオトープネットワークの構築

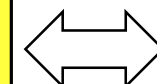
(4) 市民のソフト活動と連動した重点整備

(5) 安全で安心して利用できる水辺整備

(6) 都市整備に際しての効果的な水辺整備

寝屋川再生ワークショップからの提案と目標

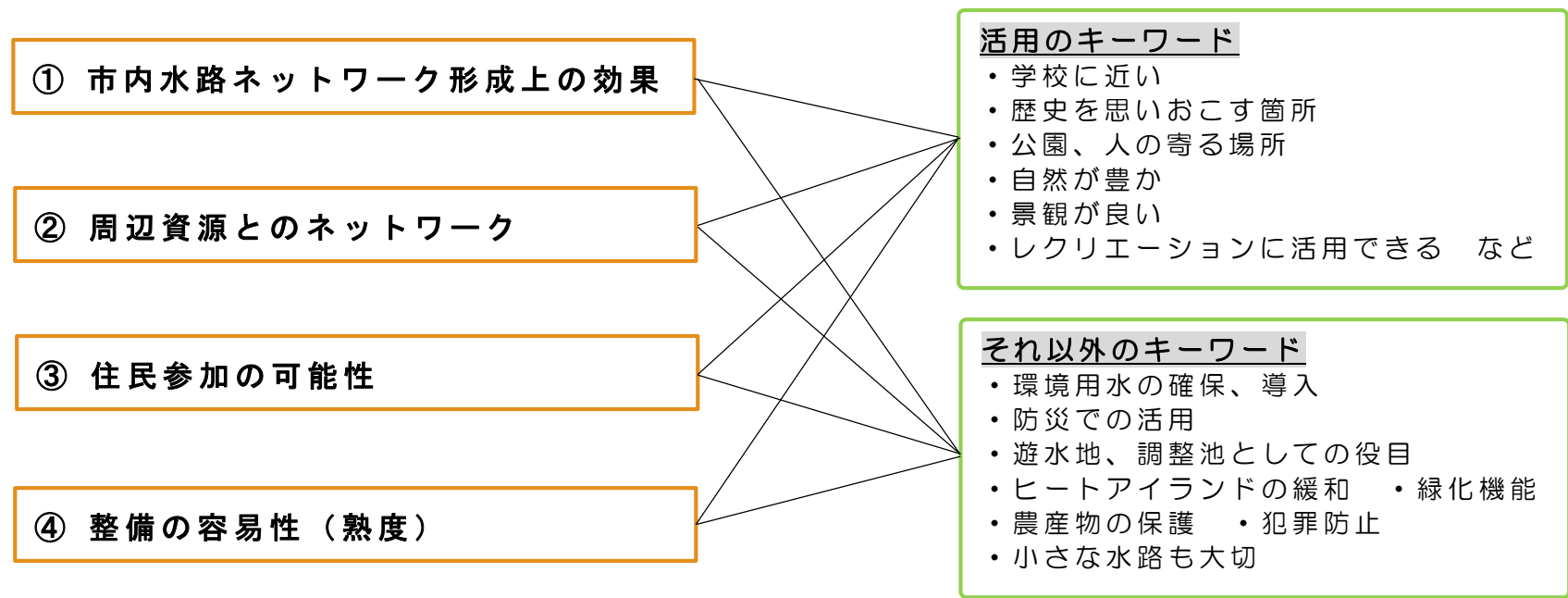
基本理念



4 重点整備箇所の抽出

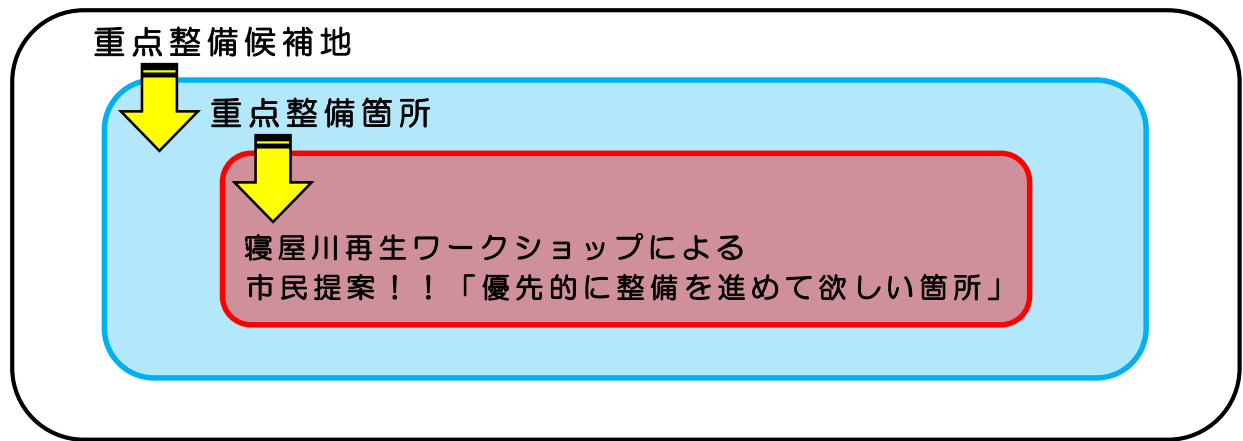
【重点整備候補地の抽出指標】

整備箇所を抽出するための「水辺整備候補地の評価項目①～④」と、さらに効果的に候補地を抽出するために必要な情報となる「水辺整備候補地の抽出に係るキーワード」を示します。



【重点整備箇所と寝屋川再生ワークショップによる市民提案!!「優先的に整備を進めてほしい箇所」】

上記により評価・抽出した「重点整備候補地」の中から、重点的に整備が考えられる箇所として「重点整備箇所」を抽出します。さらに「重点整備箇所」の中から評価が高い候補地を、”寝屋川再生ワークショップによる市民提案!!「優先的に整備を進めてほしい箇所」”とし、整備の熟度にあわせて市民協働による水辺づくりを進めることを目指します。



重点整備候補地 一覧 （34 箇所＋その他）

●1	神田地内水路	13	桜小学校横水路	25	寝屋川第五水路
●2	仁和寺第一水路	14	からくる親水公園	26	五藤池
★●3	木田地内水路	15	打上川	27	三ツ池（成田公園）
●4	古川（水路）	16	池田第一水路・上流水路	28	河北第二水路及び門真第六水路
★●5	友呂岐水路	17	木屋神社前の水路	★●29	香里浄水場周辺水路
●6	幹線水路	18	高宮栄町地内水路周辺	★●30	こも池（国松公園）
●7	寝屋川第四水路	19	香里園駅西側	-	その他、軸として残す水路・河川
8	寝屋川第十二水路	20	山新池（太秦2号公園）		
9	寝屋川第十一水路・上流水路	21	三井団地調整池	●101	川勝水辺ひろば
10	友呂岐・二十箇水辺ひろば	22	たち川周辺	★●102	寝屋川の起点
11	茨田樋遺跡水辺公園	23	田井小学校付近	★●103	寝屋川本川とたち川の落差工
12	葛原地内水路	24	池田1号公園付近	★●201	淀川河川公園点野野草地区

※ ● 重点整備箇所（13 箇所）
★ 寝屋川再生ワークショップによる市民提案!!「優先的に整備を進めて欲しい箇所」（7 箇所）

※ 「101.川勝水辺ひろば」「102.寝屋川の起点」「103.寝屋川本川とたち川の落差工」「201.淀川河川公園点野野草地区」の整備については、管理者である国及び大阪府との調整が必要です。

重点整備箇所 一覧

寝屋川再生ワークショップによる市民提案!!「優先的に整備を進めてほしい箇所」

箇所名		整備の考え方
1.神田地内水路		・友呂岐水路にも近いことや、水際に近づく易く、市民工事も容易であると思われます。周辺に学校などの施設も多く教育的な効果も期待できます。学校園や周辺自治会などの協力を得ながら、整備を進めることが大切です。
2.仁和寺第一水路		・第八中学校に近く、農地の横を仁和寺第一水路が流れており、整備も比較的容易であると思われます。近くに住宅が少ないため、維持管理体制の整備が必要です。
3.木田地内水路		・水がある水路と、水が枯れている水路が交互にあります。水路の幅が広く、また、木田小学校の横にはわかくさ緑道があり、効果的な整備が期待されます。企業が隣接していることから、学校園だけでなく企業の参画も望まれます。
4.古川（水路）		・成美小学校などの総合学習にも活用されてきたことから、扉や水辺に近づく施設整備が効果的であると考えられます。下流市との連携を見据え船着場整備などが有効です。平成 28(2016)年度から計画的な浚渫が行われています。
5.友呂岐水路		・友呂岐・二十箇水辺ひろばでは舟くだりが行われており、船着場等を整備し水辺の市民活動を充実させることで、中核市におけるシティプロモーションの取組としても期待されます。友呂岐緑地との一体的な整備が効果的です。
6.幹線水路		・木屋場水機場により淀川から取水する農業用水路であり、桜の景観で知られ、近くに茨田樋遺跡水辺公園もあります。遊歩道や船着場などの整備促進は、桜などの資源を活かしたシティプロモーションの取組としても期待されます。
7.寝屋川第四水路		・摂南大学によって、末端水路の一部区間でビオトープづくりが行われています。水辺のネットワーク形成上効果が期待できる一方、治水対策上も重要な水路であることに配慮した整備が必要です。
29.香里浄水場周辺水路		・香里浄水場周辺をはじめとする水路への環境用水の放流は、水量確保が課題といえます。当地域は特に水源を有しないという状況があり、行政が抜本的な対策を検討していく必要があります。
30.こも池（国松公園）		・都市計画公園国松公園の区域内にあるこも池は、用地は市の管理となっていますが都市公園として未開設です。周辺には緑豊かな自然が残されており、地域資源であるこも池を生かした空間形成は大きなポテンシャルを有しています。
101.川勝水辺ひろば		・寝屋川の広い川幅や河川敷の自然を生かして整備が行われ平成 25(2013)年6月に完成しました。地元住民等の更なる利活用を促進するため、平成 31(2019)年2月から魚道と渡り場(橋)の設置工事が行われています。
102.寝屋川の起点		・平成 13(2001)年度に寝屋川再生ワークショップにより策定した「寝屋川再生プラン」の重点整備地区として位置づけられています。寝屋川の起点であることを広く発信するなどのソフト面の充実を図ることが大切です。
103.寝屋川本川とたち川の落差工		・寝屋川上流のたち川から平池町桜木水門までには落差工があり、生き物（特に魚類）の生息空間の連続性が確保されるよう、引き続き大阪府へ要望していきます。
201.淀川河川公園点野野草地区		・国が定める「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に基づき、水辺環境の再生・ワンドの環境改善を図るための構想の実現に向け、寝屋川再生ワークショップでは利活用の促進や情報発信等、積極的な連携を図ることが重要です。